



BETHEL通信

2022年1月号（第222号）

松山ベテル病院 松山市祝谷6丁目1229番地 Tel089-925-5000

ホームページ <https://www.bethel.or.jp/>



『新年のご挨拶』



皆様、新年明けましておめでとうございます。ベテル通信の昨年の『新年のご挨拶』の冒頭は、「昨年はコロナで明けコロナで暮れた1年でした。まさかこんな事態になるとはだれも予想だにできなかった1年だったのではないのでしょうか。しかし、感染の拡大は年が明けても収束に向かうとは言い難く、2021年もコロナ問題と向き合いながら歩んでゆく事になりそうな新しい年の始まりです。」でした。全く同じ挨拶で始めても違和感のない2022年の年明けです。

20世紀初頭に世界的に流行し多くの犠牲者を出したスペイン風邪（インフルエンザウイルスによる感染症）は、ワクチンも治療薬もない時代に3年という長い歳月ではありましたが、パンデミックを乗り越えました。新型コロナウイルス感染症もワクチン接種が進み、少しずつではありますが、明るい兆しが見えてきているように感じています。しかしながらこのコロナ禍は、私たちが普段の生活の中で当たり前のように思っていた人と人の繋がりを奪ってしまう大きな問題を突き付けています。

ポーリン・ボスとい研究者が家族ケアの在り方として「あいまいな喪失」という概念を提唱しており、その言葉に惹かれて少し覗いてみました。コロナに罹った方が不幸にして亡くなられ、その遺族は感染対策のため看取りの現場にも立ち会えず、亡き骸との対面すらも許されず永遠の別れを余儀なくされる。遺族にとって忽然と最愛の方が目の前から消えてしまう喪失感は、隔離される前の元気だった頃の記憶だけがその方の生きていた証であり、目の前に“明確な喪失”としての実体のない曖昧さが家族の悲嘆を大きくするストレスになるというものです。

コロナの蔓延防止として取らざるを得ない人と人との接触の回避策は、医療の現場では面会制限、禁止という形で進めてきました。会いたくても入院してしまうと会うことができない。患者さまご本人・ご家族の皆さまの先行きを見通せない“あいまいな喪失”体験の一つではないかと思います。この体験の一方に、制限を余儀なくさせる側である我々スタッフのストレスでもありました。コロナ禍は、「私たちが普段の生活の中で当たり前のように思っていた人と人の繋がり」の意味を改めて教えてくれた出来事でもあると考えています。松山ベテル病院は、疾患を持った人とそのご家族の“生活を支援する”事が大切な役割だと考えてケアを進めてきました。この“生活を支援する”事には、その方の人生の最後まで支援することを含んでいます。コロナ禍の中で改めて学んだ“人と人が繋がる”事の意味を日々のケアに生かせるように、今年も続くであろうコロナ禍の中で皆さまと共に歩んで行きたいと思っています。今年もよろしくお願いいたします。

（松山ベテル病院 院長 中橋 恒）



季節のうつろい 自然のなかで



「太陽や空、草花や木々、誰もが美しいと思うすべてのものに、神様がいらっしゃるのよ」と、ある患者さんが教えて下さりました。朝陽を見ると元気が出たり、夕焼け空やきれいな星空に慰められたり、草花の美しさに癒されることはよくあります。彼女の言葉を思い出し、生かされているいのちに感謝の心持ちになります。

病院の中にと、自然に触れる機会は少ないですが、実は、院内のあちらこちら、季節を感じられる場所があります。例えば、入り口や廊下に置かれた生け花や鉢植え、廊下に架けられた絵、外来前の折り紙の壁飾り、薬局前の手作りの飾り。職員の皆さんの季節感を大切にする心の豊かさを見る人への優しい心遣いに感動し、私も楽しませて頂いております。



外来前の壁飾り



薬局カウンター

ひとつの詩をご紹介します。

一年の始まりは 春ではなく 晩秋
秋に 木々が枯れるのは うわべの見せかけ
めぐり訪れる春に そなえ
花や葉に彩を生み出し 枝を広げて伸ばす
いのちの力を 大地の奥底で
じっくりと培い 熟成させていくのが 晩秋
いのちの始まりは 晩秋なのだ。

～カレル・チャペック 意訳)方波見康雄医師～



院内の桜の木。枝先には、赤い葉が一枚ずつ。冷たい風に吹かれながら、朝陽をうけて輝いています。その元には、小さく膨らんだ若い蕾たち。訪れる春の準備がすでに始まっているようです。人間も同じ。自分が経験してきたこと、築いてきたこと、大切にしていること、生きる力、希望などを、自分の大切な人たち、次の世代の人たちに繋いでいくこと、言葉や形にして伝えることは、大きな喜びであり、安らぎの源泉になると言われています。

来たる 2022 年が素晴らしい年でありますよう願って、私のベテル通信 6 回の連載を終わります。お付き合いいただき、ありがとうございました。

引用) ※「ディグニティセラピー」 H.M.チョチノフ著 小森康永・奥野光訳

(ホスピス医 奥村 淳子)

サ高住と有料老人ホームの違い

●サービス付き高齢者向け住宅とは・・・

高齢者が過ごしやすいようバリアフリーに対応した賃貸住宅の一種です。「サ高住」や「サ付住宅」とも呼ばれており、高齢者向けの賃貸住宅に『安否確認』や『生活相談』というサービスがついています。介護が必要となった際は、訪問介護やデイサービスなど、外部の介護サービスを利用することができます。



●有料老人ホームとは・・・

入居者に介護や食事といったサービスを提供し快適に過ごしてもらうための施設です。入居者の状況やニーズに応じて、**介護付き**、**住宅型**などいくつかの種類があり、提供するサービス内容により低額のホームから高額のホームまでさまざまです。

介護付きは、ホームに常駐しているスタッフから 24 時間介護サービスが提供されます。介護サービス費は介護度ごとの定額です。

一方、**住宅型**で介護サービスを受ける場合は、老人ホームとは別に個人で在宅サービス事業者と契約をする必要があります。介護サービス費は必要な分だけ支払います。

そのため、**介護付き**はより重介護度の方に向いており、**住宅型**は軽介護度の方に向く、という性格の違いが現れます。



	有料老人ホーム		サ高住
	住宅型	介護付き	
施設の特徴	主に自立した高齢者を対象に様々な生活支援のついた居住施設	主に介護を必要とする高齢者が、介護や生活支援を受けて居住する施設	自立～要介護高齢者が生活支援を受けて居住する施設
入居対象者	原則として 60 歳以上 主に自立～軽度の要介護者	自立・要支援 1～要介護 5 ※施設により異なる	自立・要支援 1～要介護 5 ※施設により異なる
介護サービス	外部サービスを入居者が個々に契約	施設の職員が提供	外部サービスを入居者が個々に契約

「医療相談室・地域医療連携室」では関係機関との連携をとり相談をつないでいます。
お気軽にご相談下さい。

(医療相談室 社会福祉士 谷口 恵理子)

外来診療日のお知らせ

◎豊田 泰孝 医師（精神科・心療内科）

1月12日（水）、1月26日（水）

◎多田 聡 医師（神経内科）

1月6日（木）、1月20日（木）

◎細川 裕子 医師（神経内科）

1月13日（木）、1月27日（木）

◎加藤 喜久美 医師（内科）

しばらく休診いたします



●月曜日午後の漢方外来は引き続き休診いたします

新

人

紹

介

ほりた まこと

堀田 信

配属部署：臨床検査課
職 種：臨床検査技師
出身地：愛南町
星 座：魚座
趣 味：お茶（紅茶、緑茶）
好きな物：猫
尊敬する人：両親
好きな言葉：一期一会
抱 負：心機一転、頑張っていきます。



クリスマス礼拝 プレゼント配布



12月13日（月）クリスマス燭火礼拝が行われました。今年は、感染防止対策につとめ院外の方にも参加していただきました。病棟の患者さまには、ボランティアの皆さまの歌声とともにプレゼントをお配りしました。皆さまも楽しいクリスマスを！

Merry Christmas & A Happy New Year



いのちなが
寿

一字黒々

賀状かな

（野中 政彦）

秋夜長
夜勤ナースの
頼もしさ

（松浦 正継）

車椅子
押す院内や
春来る

（河田 和子）

福笑い
できた顔見て
初笑い

（藤本 加奈子）



ベ
テ
ル
句

投句箱は受付・各病棟に設置しています。皆様のご投句をお待ちしております。

『ベテル通信』についてのご意見やご要望はご意見箱へお願いします。

掲載中の写真についてはご本人様、ご家族様の許可を得ています。

発行日 2021年12月23日